

統合間近の3小 教師が駅伝力走

山鹿市

山鹿市菊鹿町の六郷小、城北小、内田小の教師陣が7日、地元なじみの駅伝大会でたすきをつないだ。学校再編に伴う閉校は目の前。これまでの感謝の思いをこめ、それぞれの小学校がある区間を力走した。

毎年恒例で42回目を

迎えた「菊鹿一周駅伝大会」は、町運動広場を発着点に10区間、約20キロのコース。小学生や40歳以上に限定した区間などを10人で走る決まりだが、教師チームは小刻みに23人で走ることを選ばれた。

4月に統合し、菊鹿小として再出発する3小の教師たちは「最初で最後の出場」に気合十分。31チーム中25位でゴールした。

小学生の区間を走った内田小の湯本順章教諭(39)は「沿道の子どもたちや保護者から熱い声援をもらい、いい思い出になった」と感慨深げ。

アンカーを務めた六郷小の池田幸春校長(57)は「地域の皆さんにわれわれの思いは伝わったはず。菊鹿小の開校に向け、先生同士の結束も深まった」と汗を拭いた。(潮崎知博)



23人の教師でつないだ、たすきを掛けてアンカーとして走る六郷小の池田幸春校長＝山鹿市